

平成 23 年 7 月 6 日 (火)
平成 23 年度 第 2 回
大阪府河川整備委員会

資料
1

治水専門部会における審議状況

◆部会メンバー (50 音順)

氏 名	所 属	専門分野	備考
た た の ひろかず 多々納 裕一	京都大学防災研究所 教授	災害経済学	部会長
た なかまる はるや 田中丸 治哉	神戸大学大学院農学研究科 教授	農業水利	
なかたに けいごう 中谷 恵剛	(財)滋賀県建設技術センター 常務理事	治水行政	部会長代理
ほり ともはる 堀 智晴	京都大学防災研究所 教授	減災対策	
みちおく こうじ 道奥 康治	神戸大学大学院工学研究科 教授	水工水理学	

開催経過	審議項目	審議結果
第 1 回 平成 23 年 6 月 8 日 (水) 18:00~20:00	部会長及び部会長代理の選出	推薦により多々納部会員が部会長に、中谷部会員が部会長代理に選任
	一級河川寝屋川流域の当面の治水目標の設定に向けた論点整理について (汜濫解析に用いる外力について)	寝屋川流域の特性を考慮し、過去最大である八尾実績降雨を 80 ミリ相当 (最終目標) 雨量として、また、50 ミリ相当としては八尾実績降雨のⅢ型引き縮めを用いることは妥当。ただし、中間の雨量については、数パターンの対象降雨を与え、治水施設の効果も踏まえて検討を行うこと。(継続審議)
第 2 回 平成 23 年 6 月 29 日 (水) 9:30~12:00	二級河川芦田川の治水手法案の作成について	(東羽衣調節池から国道 26 号の当面の治水目標が 50 ミリ相当区間についての) 治水手法は河道対応案で進めることで良いが、超過降雨に対する各案の便益・効果について次回委員会で併せて説明すること。
	二級河川佐野川・住吉川の 当面の治水目標の設定について	既往災害時の降雨データを整理・検証し計画降雨波形の適合性をチェックした上で、治水目標の検討を行うこと。(継続審議)
	一級河川寝屋川流域の 当面の治水目標の設定等について (中間目標設定における降雨波形について)	中間の整備水準として、中央集中型モデル降雨と八尾実績型降雨を与え、検討を進めること。(継続審議)